



Friendship &amp; Exchange

# スコットランドの風

英国大使館中庭にて  
関会長＆山口副会長  
彫刻／理事ケイト・トムソン作品  
「親和の小波」



## NPO法人『日本スコットランド交流協会』



の活動は、設立認証を受け法務局に登記をした「定款」に定めた通り、逸脱することなく事業活動及び運営をしなければなりません。そして毎年、年度毎には、活動報告と会計報告を義務付けられています。それは、会社で言うと分かりやすいのですが代表者である社長（会長）がいて、役員会（理事会）があり会社定款の営業活動（本支部の事業）があり、それぞれ意思決定機関と権限を明確にして運営されます。そして、年度末に事業計画に則った活動報告と、不正流用のない明朗な会計であることを株主総会（総会）で報告承認を受けます。

一般的に会社に信頼度と品格があるように、私どものNPO法人も、これからスコットランドとの交流を通して、志を高く持ち、皆さまと共に、信頼と品格を高めて行きたいと考えています。

副会長 山口 謙治

当会、日本スコットランド交流協会は平成26年2月4日東京法務局に登記を済ませ晴れて「特定非営利活動法人」(通称NPO法人:NonProfit Organization)になりました。NPO法人になることで、社会的な信用度が増すとともに、寄付金への免税処置や、法人名での銀行開設や資産登記など一般法人企業（会社）と同等のことが可能になりました。また、将来行政機関と協力し合って事業を推進することも可能です。ただし、法人格であるが故に、厳格な縛りと義務があります。NPO法人



## 第2回総会、駐日英國大使館での開催決まる。

來たる6月20日(金曜日 5:00～8:00pm)に、NPO法人日本スコットランド交流協会の第2回総会、NPO法人となって初の総会を昨年同様、駐日英國大使館で開催する運びとなりました。

昨年の総会では、皆さまに出来るだけ早くNPO法人としての認可を取得するという御約束をしましたが、今年の2月4日に認可が下り、現在会員数も増え続け、活動もより活発になっています。このような今、皆様と共に第2回総会とレセプションを駐日英國大使館で開催できることは、この上ない幸せです。

昨年9月27日の大使館での総会は参加者90名を数え、まずは議案書に添って、着々と決議、報告などを進めた後、レセプションでは、美味しいディナーを楽しみ、会員同士が談笑する中、バグパイプの演奏、会員によるスコットランド民謡唱歌、さらにプロの演奏家としてご活躍の山内達哉さんのバイオリン演奏など本当に楽しい会となりました。

この度の総会では、特定非営利活動法人（NPO法人）となった協会が、NPO法人にふさわしい会として今後発展して行くための自覚を新たにして議事進行を進めていきたいと考えています。レセプションでは、今回も、日本と英国の教育関連の交流の要となっているブリティッシュ・カウンシルの代表、ジェフ・ストリーター氏がゲストスピーカーとして来て下さいます。昨年のゲストスピーカーのスコットランド開発庁の日本代表、スティーブン・ベーカー氏は現在、会員となられ、さらにJSAアンバサダー（JSA大使）として、対外的なJSAの顔として活躍していただいている。ベーカー氏からもスピーチをいただく予定です。バグパイプは会員の杉山憲司さん、山形倫弘さんに演奏していただきます。さらに、3月下旬にスターリング大学で開催されたJAPANESE WEEKの雰囲気の一端を味わっていただければと思い、同じ演奏者（早稲田大学箏曲研究会のメンバー）による箏曲演奏も予定しております。山内達哉さんには今年も素敵なバイオリンの演奏をしていただく予定です。JSAには様々な経験や知識を持って活躍されている会員の方がたくさんいらっしゃいます。総会を含め約3時間の短い時間ではございますが、皆様にはぜひご参集頂き、スコットランド文化の交流の場として、また、新たなネットワークの場として、お楽しみ頂ければと思っております。皆さまが奮って参加されることを願っています。

事務局 大工園 佳代

# Japanese Week 2014 関 妙子



スピーチされるスティーブン・ベーカー氏と有馬 純氏  
第 2回 Japanese Weekが3月25日、26日、27日、三日間に渡り、昨年に引き続きスコットランド大学で開催されました。今年はNPO法人日本スコットランド交流協会が後援団体として、The Consulate General of Japan(総領事)、Japan Society of Scotland(スコットランド日本協会)、Japan Society of UK(英國日本協会、1891年創立)と共にプログラムに明記され、昨年同様、JSAの会員が積極的に様々なイベントに参加貢献し、昨年を上回る人々を集め成功裏に幕を閉じました。

25 日初日は、多忙にもかかわらず日本から駆けつけた日本スコットランド開発庁の日本代表でJSAアンバサダーのスティーブン・ベーカー氏の開会の辞で始まりました。ベーカー氏は日本とスコットランド両国間で経済のみならず、教育など多方面でこれから相互協力についての可能性に触れられました。引き続き、JETRO(日本貿易振興機構)ロンドン代表の有馬純氏がアベノミックスを中心に、最新の日本経済の動向を多くの統計で説明、日本がこれから目指すところを示唆する魅力的なSpeechをされました。定員250名のレクチャー・シアターが満席になるほどの人気でした。講演後のレセプションでは、日本総領事の北岡元氏から本格的なにぎりしの差し入れ(約1500個)があり、皆、大興奮いただきました。

その後、「無限響」による勇壮な太鼓の演奏を楽しみました。この楽団のリーダーの奥さまが、JSAツアーで訪れていた山口さんの知人の娘さんであるという不思議な縁もありました。

26 日はスコットランド大学のシェフが腕をふるった日本スタイルのランチから始まり、本格的な日本文化紹介・体験の一日となりました。簡単な日本語教室に始まり書道教室。ここでは、JSA会員の光恵子さんが跡見学園女子大学から寄贈された書道具15セットを使い70名を越す人々に教えました。引き続き、やはりJSA会員堀内恵子さんが書道のパフォーマンスを披露、喝采を浴びました。その後、早稲田大学箏曲研究会の学生3名に私も加わり(40年前に仲間と創立したクラブが賞を取るまでに成長しました)、さらにプロの箏曲演奏家 岩田玲子さん、ハーモニカ世界チャンピオンの



堀内恵子さん&スージー・ハギンズさん



左から、渡部 巴、ケイト・トムソン、前原 正人、堀内 恵子、山口 謙治、関 妙子、岩田 玲子、スティーブン・ベーカー、島本 順夫、堀内 長太郎、光 恵子

メルビン・小林史真さんにも演奏いただき、多くの観客に日本の音色を楽しんで頂きました。3面の筝を日本から運びましたが、その内2面をスコットランド大学に寄贈、今後、スコットランドの学生にも演奏を楽しんでもらうことになりました。



写真上／早稲田大学箏曲研究会の木田 薫、大金 真依、鈴木 瑞穂さん  
写真下／40年来の師匠、岩田玲子氏と競演する関会長  
ハーモニカ世界チャンピオンのメルビン・小林史真さん



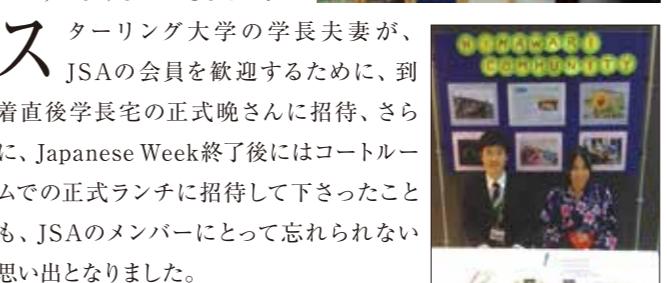
27 日は、茶道教室。さらに閉会のスピーチは、エディンバラ博物館の上級学芸員ロジーナ・バックランド氏が歌舞伎の浮世絵について、専門家として私たちも知らないような学術的でおかつ面白い話を披露してくれました。

Japanese week 開催中の展示でもJSAが大活躍でした。ケイト・トムソン氏は津波の支援のために多くのアーチストに作成してもらった作品を絵ハガキにしたものを見せてもらいました。さらに宮崎の写真家、綾順博氏の宮崎の自然を写した作品も壁面を飾りました。JSA最初の奨学生の堀内長太郎君は津波の犠牲になった方々が



関会長、Stephen Baker、JETOR 有馬さん、総領事 北岡さん、副学長、ケリーさん、スコットランド市長

仮設住宅で作っている小物の販売をし、ほぼ完売しました。彼の熱意に、スコットランド大学は、200ポンドの寄付を申し出るというおまけまでつきました。



ターリング大学の学長夫妻が、JSAの会員を歓迎するために、到着直後学長宅の正式晩さんに招待、さらに、Japanese Week終了後にはコートルームでの正式ランチに招待して下さったことも、JSAのメンバーにとって忘れられない思い出となりました。

最後に2年続けてJapanese Weekの中心人物として係っていました。ただいたスコットランド大学の涉外局長ケリー・ブライソン氏と実質的な業務をすべて取り仕切ってくださったイベント・マネージャーのスージー・ハギンズ氏にも心から感謝申し上げたいと思

います。今回も多くの人々がJapanese Weekを楽しみ、昨年を上回る成功となりました。JSAの皆様の貢献に感謝いたします。

## スコットランドツアーに参加して

### 書を通して心がかよいあう 光 恵子



JSA主催のスコットランド・ツアーは魅力的な内容でした。ただ、旅の中盤に行われる、Japanese Week Calligraphy Workshopのことが気にかかり、夜中に起きてねむれることもありました。当日の朝、彫刻家のケイト・トムソンさんに英語の発音を直していただき、クイズもありこみながら、漢字についての短いスピーチをおこないました。続いてスコットランドのみなさんと一緒に墨で好きな漢字を書いてもらいました。70名ほどの参加者は、お手本を参考しながら書道を楽しんでくださいました。書を通して、スコットランドと日本の距離がぐっと近くなった気がしました。

### スコットランド大学の存在は貴重 島本 順夫

陽春の宮崎からすると、やや肌寒いスコットランドの気候でしたが、訪れたどの地も新旧のバランスのとれた素晴らしい街並でした。ガイドの留学生の行き届いた案内も、旅を安全で快適なものにしてくれました。ハギスやフィッシュアンドチップスで飲むビールも旨く、特にジンライムの爽やかさに驚かされました。

そうです、水が最高に旨いのです。水は、現在のスコットランドを象徴する最高のおもてなしでした。過去の歴史の中での日本との関わりを思う時、現在進めておられるJSAの活動が、人的交流を通じてお互いの文化を高め、相互理解を深め、輝かしい明日を作つて行くものと確信しています。その中心としてスコットランド大学の存在は、貴重なものであると考えます。



エジンバラ城にて、ケイトさんとお姫様に大変お世話になりました。

### 私の心に残る美しい思い出 堀内 恵子

書を通じて国際交流をしたいという夢を、私はずっと抱いていましたが、スコットランドでそれを実現することができ、心より感謝しています。中国から伝わり独特な発展をとげた和様の書ですが、感じてイメージして表現すれば、世界中の人々にも理解してもらえると信じていました。そして、スコットランドの皆さんにその思いが通じ、素敵な時間を共有できたことを、大変うれしく思っています。たくさんの方とのふれあいで学ばせていただいたことも、とても大きかったです。スコットランドの自然や、素晴らしいキャンパスも私の心に残る美しい思い出になりました。またスコットランドに帰つて、皆さんにお会い出来ることを楽しみにしています。

## 関会長・名誉博士号を授与

We congratulate you on receiving the prize!



写真左／学長 ジェリー・マコーマック氏 右／理事長 ジェームス・ノーティ氏  
2013年11月22日、NPO法人JSA会長：関妙子氏はスコットランド Stirling大学から名誉博士号を授与されました。関氏は2004年同大学の教育学博士号を取得後、JSAの礎となる「スコットランドと日本の懸け橋」を教育の現場で実践してきたことを高く評価されての受賞となりました。今回、受賞式で来賓の方々（スコットランドをはじめとして、UK等々から招かれている）に配られたパンフレットにお祝いの言葉を述べられたStirling大学副学長、Professor John Gardnerの文面を掲載させていただくことで、関氏の長年の活躍と私たちJSAの活動の一部を皆様へ紹介できることをとても喜ばしく思います。

Doctor of University  
Dr Taeko Seki  
Presented by Professor John Gardner,  
Deputy Principal for Education and Students.

Dr Taeko Seki will receive the award of Doctor of University in recognition of her outstanding services to the University of Stirling and to fostering links between Scotland and Japan.

A lecturer in English Language Education in several Japanese universities, Including the illustrious Waseda University, Taeko Seki's association with the University of Stirling began in 1994 with a Master's degree in Education and Continued in 2004 with her PhD examining attitudes and motivation for learning English in Japan. Her greatest number of online views between 2006 and 2009 and her work has been recognized by the University's School of Education, which appointed her as an Honorary Lecturer.

Dr Seki has long been a tireless and enthusiastic ambassador for the University. She established the Taeko Seki overseas Scholarship programme, designed to assist Japanese students studying at agent for the University's own Centre for English Language Teaching, recruiting 60-70 Japanese students to their short-course English language programmes each year.

Taeko Seki continues to champion Japanese-Scottish links and heads the Japanese Alumni Association of the University of Stirling, which has more than 250 active members and Japan Scotland Association which has 200 members. Her work has been recognized by the Scottish Government which invited her to be the first female GlobalScot, a network of influential business heads.

Most recently, Dr Seki and the Japan Scotland Association were instrumental in developing and supporting the University's inaugural Japanese Week in March 2013, an event designed to foster cultural and educational ties between Scotland and Japan.

## JSA大使 Dr. Stephen Baker Connecting



We all have busy lives but we know it's important to remember and mark certain important events or direct our minds to certain values that have meaning to us all. Personally we do this when we celebrate a friend's birthday or when a couple celebrate a wedding anniversary. A nation will encourage collective celebration or reflection through the designation of certain days, often as a public holiday. Foundation Day in Japan (建国記念の日 Kenkoku Kinen no Hi) is a day to reflect on the establishment of Japan and to nourish a love for the country. Other days, such as Greenery Day (みどりの日 Midori no Hi) which encourages us to experience nature and appreciate its importance, reminds us collectively of something which is (or should be) important to us all.

One way the Scottish Government has approached this is through "Scotland's Years of Focus". This started in 2009 which was designated as the "Homecoming". The idea was originated from the aim of boosting Scottish tourism during a period of economic downturn. Over the years Scots have migrated all over the world. It is said of this Diaspora or "Scattered population" that for every person in Scotland there are now five people of Scottish heritage abroad. The Homecoming of 2009 was a way of encouraging a connection with these people by inviting them to "come home" and reconnect with heritage.

Scotland's first year of Homecoming in 2009 was a great success and showed the value of rallying Scotland around a common theme. This led the Government to create a series of strategic focuses that would lead to coordinated national activity by designating the years through 2014 with themes that spotlight Scotland's greatest assets so as to . 2010 Food and Drink, 2011 Active Scotland, 2012 Creative Scotland, 2013 Natural Scotland, and 2014 Homecoming again.

This year's Homecoming is a special year in which Scotland welcomes the world with a year-long programme of events that celebrate the very best of Scotland's food and drink, active and natural resources as well as its creativity, culture and ancestral heritage.

The Ryder Cup and the Commonwealth games are two key events that will certainly encourage many people to travel to Scotland. The Commonwealth games in particular will deepen Scotland's connection with the 2.2bn citizens of the other 53 independent countries of the Commonwealth.

Japan too is promoting people to visit Japan through themes such as "Cool Japan". As JSA looks to build bridges and forge connections between Japan and Scotland this is certainly a great time to encourage our friends in both countries to visit each other and deepen our connections through the rich experiences that these focus bring.

  
**Defending Our Territory**  
Kate Thomson

Kate and tribes at the scene of the crime

We spent childhood holidays at a cottage in Peeblesshire where a Stone Age camp had stood thousands of years ago. My siblings and I (two blond and two of us dark) would play rival tribes. One day we had climbed opposite hills to pick wild blueberries when we noticed a car driving up the track in "our valley". We bristled as a family of city slickers parked by "our stream", put up four chairs, and a picnic table complete with lace tablecloth, even throwing rubbish into the pool we had dammed off. We whistled the signal to charge. Four feral children, faces covered with blueberry juice war paint, descending from all sides. In haste the panicked family bundled themselves and their half eaten picnic into their car and fled. Victorious, we never saw them again.

## JSA初の留学生からご挨拶 堀内 長太郎



スコットランドのダンスの集い(Céilidh)にて伝統衣装(kilt)を身に纏い

この度は奨学生としてご採用頂きまして誠にありがとうございます。私は現在、スコットランド中央部に位置しているスター・リング大学にて国際ビジネスと社会経済発展について学んでおります。級友は私を含めて6名と大変少ないクラスですが、意外なことにイギリス人はおらず、ナイジェリア・キューバ・トルコ・カナダ・ドイツからの留学生と共に大変国際色豊かな環境で勉学に励んでおります。今冬は、日本から語学留学に来られた学生さんをサポートするために学生大使を務め、勉学の傍ら諸活動にも積極的に参加しております。これから夏に向けて修士論文執筆のため忙しい毎日となります。勉学の成果をJSAの皆様方にしっかりとご報告できるよう、より一層勉学に力を注いでいく所存です。

## エジンバラNOW Edinburgh Flat Hunting

片桐 宏典

エジンバラでの引越はこれで三度目になる。最初は市内南側の閑静な住宅地、Newington地区、Findhorn Placeの3LDKに夫婦二人と子供二人。この辺りはケイトの両親が住んでいたので土地勘があつたし、妹たちも近くにいる。スタジオも同じエリア内だった。次に移ったのはWest End地区 Rutland Squareの3LDKベースメント。上はノルウェー領事館、隣はインド領事館、スコットランド建築家協会やエジンバラアートクラブなどがある。日本領事館も近い、美術館やギャラリー、エジンバラ城や駅は目の前。恐ろしく便がよく、パーティには最高だったが、子供が一人減った今となっては広すぎる（高すぎる）ので、今度は小さめのアパートを探すこと(Flat Hunting)にした。

エジンバラは七つの丘に囲まれ、城を中心に世界遺産の美しい街並みが広がる。学生が溢れ、エジンバラ・フェスティバル、ホグマニーなど文化と人生を楽しむには理想的な町かもしれない、海に面したLieth地区には、なかなか予約の取れないシーフードレストランが並ぶ。ということで、エジンバラの土地建物は恐ろしく値段

が高い。リーマンショックでもほとんど下がらなかった。

三月、ちょうど学生たちが引越の時期となり、住宅マーケットはしのぎを削りあう最高潮に達する。ほとんど毎日のように新しい物件が出てくる。通りのあちこちに「To Let」と看板が出ているので、すぐに分かる。相場は2LDKで700から900ポンド/月。われわれは古い物件を目指した。新しい建物は安いが天井も低く面白みがない（でも冬は暖かい）。われわれは片っ端からアポを取って、あちこち見学にお邪魔する。見学は多いときに10人以上がまだ住んでいる人の部屋をぞろぞろ見て回る。気に入ったら家賃一ヶ月分の前金払って予約する。早い者勝ち。いい物件だと見学途中で抜け出してオフィスに駆け込むやつもいる。

さて、今度はどこにしようか? New TownやOld Townは高すぎる。人気のMorningsideやMarchmont地区のWarrender Park Roadなんて最高! 「Eddie's」という街一番の魚屋がある。30ヵ所ほど見て回った結果、Newington地区Causewaysideの2LDKに即断した。こじんまりしているが光に溢れ、曲がりくねった廊下が面白い。友達が通りの向いに住んでいる、スタジオ3分、スーパー、銀行ATMが50m以内。近くに「Mathieson」という、これまた街で評判の肉屋もある。ただ、下がインド料理屋なので毎日、昼近くになるとカレーの匂いが漂ってくるのがなんともいえない。



この「To Let」看板を見る度に思い出す。二十数年前、私達の結婚式にオーストリアから作家仲間たちがはるばる駆けつけてくれた。式の翌日、ハネムーンにも行かず、秋の暖かい昼下がりの庭で私は彼らとビール片手にのんびり麻雀をしていた。突然、立派なひげを蓄えたスロバキア人のペーター・ローラーが思い出したようになに言った。「カタ、けさ街を散歩したが、エジンバラには公衆トイレが多いな」、えっ? 「あちこちに-ToiLet-と看板が出ている」

一瞬の沈黙の後、笑い転げて、もう麻雀どころではなかった。

NPO 日本スコットランド交流協会 主催

JSAの会員の皆さんにこの夏魅力的な『SCOTLAND』への2つの誘いです。詳しくは裏表紙をご覧ください。

第2回 スコットランド・ツアー（2014年8月21日～30日）  
スター・リング大学 夏期英語研修（2014年8月4日～29日）

## JSA会員紹介

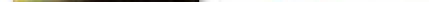
## エッセイスト：武部 好伸



スコットランド「ケルト」の誘惑 2013年7月31日 言視社  
ウイスキー アンド シネマ 2014年1月24日 談交社  
「ケルト」紀行シリーズ 1999年9月～2010年10月 彩流社

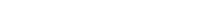
元読売新聞大阪本社記者。映画、洋酒、ケルト文化の執筆活動に励む。日本経済新聞やウイスキー専門誌「Whisky World」などに映画エッセーを寄稿。日本ペンクラブ会員、関西大学非常勤講師。著書に、「ケルト」紀行シリーズ全10巻（彩流社）、「スコットランド「ケルト」の誘惑」（言視社）などがある。20冊目の著作『ウイスキー アンド シネマ』（談交社）を記念して先日、生家近くの書店でトークショー開催。これが傑作。幼少期、銭湯の裏庭の鯉を湯船に放り込んでメッチャ怒られた。今でも怖くてその風呂屋に近づけない。魚の色が変わったかと思ったら、記者時代に黒澤明監督を単独インタビュー、それも20分だけという監督の意向を「武部マジック」により2時間に延ばした。アコギのライブ活動（ちょかBand）とランニングにも取り組む。トラキチ。JSA会報「スコットランドの風」次号より武部好伸さんの興味津々なコラム連載が始まります。

どうぞ、ご期待ください。



## 作家：小林 正典

小林正典氏の著書「英國太平記」（講談社文庫）を読み終えた時、これこそスコットランドを理解するうえでの必読書と思いました。その面白さに時を忘れて一気に読みました。強敵イングランドを相手に果敢に攻める戦略、反対に相手をひきつけての戦略等には、いつしかあなたも傍らで見ているような気分にさせられます。「栄光のためになく、富のためになく、名誉のためにない、ただ自由のためのみ我々は戦う」という日本に於いては知ることが出来ないスコットランドの自由のための戦いの歴史を実感していただけます。書評でも高い評価を受けた作品です。小林氏は、84年から5年間英國日産自動車製造会社で財務担当ディレクターとして英國に滞在され、その際の入念な取材と旺盛な読書量から生み出された傑作です。昨年秋には、JSA東京の第1回文化講演者として、直接興味深いお話を伺うことができました。また、GlobalScot（世界各国でスコットランドのために働くボランティアとしてスコットランド政府が任命）の一員でもあり、今後もJSAに多大な貢献をしていただけると期待しています。



## 歌人：香川 ヒサ



三億年前よりあった  
岩山も  
尾根行く人も  
風景である

グレンコーを詠む/perspective▲

歌壇の登竜門「角川短歌賞」を1988年「ジュラルミンの都市樹」で受賞、1993年には、歌集「マテシス」で「河野愛子賞」を受賞する。叙情からは遠く離れた、ドライな歌風。「理知的な言葉への好奇心によって私達の常識の死角に宿る思いがけない詩を発見してきた歌人」（川野里子）とも評される。2007年、第六歌集「perspective」（写真上）により若山牧水賞を受賞。祖父・佐野千山の影響で短歌を始め、「醍醐」所属の歌人母・廣瀬美枝と共に英國、特にスコットランドを度々訪れ、歌の着想を得ている。英國から始まった近代化の所縁の地を歩き、歴史を辿り、現代の日本と自らの立ち位置を探る・・その成果は第七歌集「The Blue」に結実。この歌集にはアイルランドの友人Anne Towersの写真をカバーに使っている。また、アイルランドではGalwayで六年来現地の詩人と朗説会を開き、Dublinでは日本大使館で昨年に続き「短歌・俳句の会」で文化交流を図っている。

## 彫刻家：片桐 宏典



作品左から「覚醒する風景／永遠と偏在」「21.June 1985」

気仙沼出身の彼は世界中で町に現代アートが溢れた80年代、日本を飛び出して夏はオーストリア、冬はスコットランドを中心にヨーロッパ各地でプロジェクトに参加していました。1988年にはグラスゴーで若き仲間たちとNPOワークショップを設立、エジンバラでのロイヤルスコティッシュアカデミー展でラティマー賞を受賞。1991年に同じく彫刻家のケイト・トムソンと結婚、その後は東北での活動を中心にながら、1998年、彼女とともにUK98岩手アートフェスティバルを企画運営しスコットランド現代アートを幅広く日本に紹介しました。JAPAN2001においてはケンブリッジとアバディーンで巡回展。現在は岩手とエジンバラに拠点を持ち、往復しながら精力的に制作と発表活動を行っています。リリズムを追求する彼の石による現代抽象彫刻作品は日本各地で見ることができます。今年5月、スターリング大学に彼の14点目の作品が展示されます。

## 第1回 スコッチウイスキーを楽しむ会



2014年2月1日、初ミーティング

右から、新改 僧基 寺田 洋、一ノ瀬 浩 関 妙子、野間 忠博



## スコットランドといえば思い浮ぶのがスコッチウイスキー

「日本スコットランド交流協会の東京地区にはスコッチウイスキーを楽しむ会がまだないようですので有志で同好会を作りませんか?」と言いた出したウイスキーが好きな私が代表を仰せつかりました。どうぞ宜しくお願いいたします。スコットランドが好きなメンバー同士でスコッチウイスキーを楽しみながらスコットランドに想いを馳せませんか? 皆さまのご参加をお待ちしています。 一ノ瀬 浩

## 第1回「スコッチウイスキーを楽しむ会」

開催:2014年5月第2土曜日より、隔月

会費:4,000円（当日払い／会員限定）

\*当日ご入会も可能です 第1回 5月10日(土)

第2回 7月12日(土)

第3回 9月13日(土)

(オーバーする場合は、翌月に再度設定します)



## 第1回: 2014年5月10日(土) 午後4時～6時まで

（「スコッチウイスキーを楽しむ会」終了後は各自清算にてお楽しみください）

スピーカー:ハイランダーイン東京 オーナー 鈴木 俊之氏

## 「テイスティングのタペ」

JSAメンバーには、スコッチウイスキーに精通されている方も多いかと思いますが初心者を対象としたプログラムで話していただきます。

下記テーマからセレクトして「年6回」を楽しく続けていきたいと思います。

◎スコットランドとは？ ウイスキーの誕生は？ その原料は？ 製造行程は？

蒸留所は？ 生産地域は？ アロマ&フレーバーは？ テイスティングとは？

◎第1回のテイスティング予定ウイスキーは、ストラスアイラ、オーヘントッシャ、スプリングバンク、ラガーリン。そしてサービスフードには、定番のフィッシュ&チップスを考えています。

◎当日テイスティングする、講演内容とウイスキー紹介のテキストをご用意します。参加者には、無期限の会員証を発行。これは後日来店時に提示すると総額の10%割引き特典が付いています。どうぞ、ご利用ください。

◎参加ご希望の方は「サイボーズLive」のユーザー登録をお願いします。

<https://cybozulive.com/register>  
登録後、日本スコットランド交流協会サイトよりエントリーしてください。

締め切り: 2014年5月9日(金)

お問合せ: 代表 一ノ瀬 浩

fandam.aasrm@gmail.com

副代表 寺田 洋

h.terada.jp@gmail.com

## 倫弘の よもやま ウイスキー四方山話

1

SMWSはエジンバラに本部をもち、ウイスキー蒸留所から樽を購入して瓶詰めし、会員向けに販売している組織だ。

モルトウイスキーのボトルというと、蒸溜所の名前や熟成年数などを表記するものが少くない。言葉ではSMWSが定めた蒸溜所コード番号と、選定した樽の通し番号が記載され、味の特徴を示すタイトルが付けられている。このタイトルの表現には意味不明なものが少なくない。言葉での味覚の表現は難しいものだと思われる。

さて、2013年に新たに日本の3つの蒸溜所がSMWSに認定されそれらのボトルが、この2月に販売が開始された。下記がボトルの番号とタイトルだ。もし、見かけたら味見されてはいかがだろうか。

- 130.1 Dynamic and attractive
  - 131.1 The sinful side of sexy
  - 131.2 Magic carpet in a sweetie shop
  - 132.1 Secret moonlit garden dram
  - 132.2 Stunning Panoramio of exotic fruits
  - 132.3 Dark, mysterious and seductive
  - 132.4 Grubby ginger gold
  - 132.5 Sweet and darkly beguiling
  - 132.6 Nite Nurse nipped by piranhas
- （蒸溜所コード130:秩父/131:羽生/132:軽井沢）

## 東京本部 Pub Meeting

東京本部では隔月の第4金曜日にPub Meetingを開催しています。

会場は、JSA会員の嶋琢弘さんがオーナーの「タウンクライヤー」です。

パブミーティングですので、自分の飲み物を自分で買って参加する形式です。途中参加・退席も自由ですので週末にお気軽に参加いただけます。次回のPub Meetingは、5月23日(金)午後7時からです。皆さんのご参加お待ちしています！

## タウンクライヤー

〒105-0003 東京都港区西新橋1-2-9 日比谷セントラルビルB1F  
お問合せ:荒井健太郎 arai@jpn-scot.com Tel:070-5553-9515

## JSAメンバー店で大いに飲んで楽しめましょう!

Main Bar (川北 淳士)  
芦屋市茶屋之町1-1 第一プラウンビル2F  
Tel:0797-35-0635  
営業時間:17:00～26:00 日曜定休

BAL Buena (皆川 翼)  
東京都新宿区大久保1-1-9  
Tel:090-9969-7336  
●月～木・日: 17:00～翌2:00 / 年中無休  
●金・土・祝前日: 17:00～翌5:00



## JSAの会員の皆さんにこの夏魅力的なSCOTLANDへの2つのお誘いです

### 第2回 スコットランド・ツアー (2014年8月21日~30日) \*お申込みは5月末日までにどうぞ

JSAの会員の方のためのScotlandへの旅。第2弾です。3月の第1回 Scotland Tour が大変好評でしたので、夏にも開催となりました。奮ってご参加ください。宿泊はStirling大学関連施設ですので、EUで一番美しいといわれている Campus Life も楽しめます。訪問先:スターリング大学/エディンバラ(世界遺産都市)/グラスゴー(グラスゴー・スクール・オブ・アート訪問など)/ネス湖(一泊旅行8月23日~24日)/ウイスキー醸造所訪問など。

### スターリング大学 夏期英語研修(4週間:2014年8月4日~29日) \*5月末日締め切り

4週間の英語コースで本格的に英語の習得を目指したい方、どうぞご参加ください。18歳以上であれば、年齢制限はありません。英語能力も、Primary, Intermediate, Advancedにクラスが分かれますので、特には問いません。2週間、3週間の参加も可能です。

上記2つのイベントに興味のある方は、お気軽に下記、閑妙子まで連絡ください。詳細をお知らせします。会員のご家族、ご友人の方のご参加ももちろん大歓迎です。両イベントの期間、私(閑妙子)もStirlingに滞在します。閑妙子(Stirling University: Honorary Doctor) 〒161-0033 新宿区下落合3-12-28-1401 TEL & FAX: 03-5988-8785 携帯: 090-7192-4650 E-mail: taeko.seki@gmail.com

## JSA 東京

お問合せ／山口 謙治 Tel:090-3222-9899



東京本部では定着している英会話教室、Discussion in English、パブミーティングに加えスコッティウェイキーを楽しむ会\*も発足しました。私たちは会員・非会員問わず共に楽しめる場所の提供を拡大して行きたいと考えています。是非皆さん

も自分の好きなスコットランドの楽しみ方を探してみてください。

**【Discussion in English】**毎月第2週(土) PM5:00~ 新宿区日本や世界のTopics、習慣の違いなどを題材に英語で討論する新しいスタイルの英会話教室に、若い人から80歳代の方まで参加しています。

**【英会話教室】**毎月第3週(土) PM3:00~ 大田区

挨拶や日常会話、自分のことを相手に伝える方法、何回も言葉に出すから楽しく覚えられる。17歳から70歳代の方まで参加しています。両教室とも教科書を使わず、本物のイギリス英語で進行します。講師(ケンブリッジ大学院卒業)はあなたのレベルをすぐに理解して質問をしてくれます。だから英語のレベルや年齢を気にせず参加してください。\*パブミーティング&楽しむ会の情報は7ページをご覧ください

## JSA 中国

お問合せ／木村 拓平 Tel:090-9836-7099



中国支部では、「広島スコティッシュナイト～パイプの会～」を開催致しました。

世界に誇るパイプブランド「柘製作所」柘社長による「スコットランドとパイプ」のお話を、スコットランドの伝統的料理を中心にお食事

も楽しんで頂き、スコットランドビール「ブラックアイル」5種類飲み放題。また、バグパイプの生演奏やスコットランドダンスの披露、キルトの展示および試着、そして最後にキルト生地のパイプ用ポーチを10名にプレゼント!など、広島の皆様に、スコットランドの魅力を存分に楽しんで頂けた一夜だったのではないかと思います。

## JSA 関西

お問合せ／香川 久生 Tel:090-8937-0319



イングリッシュ・コンサティナの演奏

関西支部は「楽しさ」を前面に出して活動しています。まず、昨年「英國屋」で実施した「アフタヌーンティーの集い」の「ケルトの音楽と楽器」と題したイベントを紹介します。イーリアンパイプやイングリッシュ・コンサティナなど複数の楽器を操る松阪健さんに出演していただきました。イーリアンとはアイルランドゲール語で肘のこと、肘を使って演奏するバグパイプはグレートハイランドパイプとはまた違った少し軽めの音色でした。演奏と楽器や曲の説明を交えたとても楽しい演奏会でした。

次に、この5月25日(日)夜の「からすま京都ホテル」でのイベント「スコッチナイト」を紹介します。ホテルの地下バーでの開催をJSAが後援します。スコットランドビール「ブラックアイル」や軽食とともにバグパイプやレズリー・デニストンさんの唄を楽しみます。皆様も初夏の京都でスコットランドの夜を楽しんで見ませんか!

また、6月20日の総会開催の後、7月20日(日)午後に関西支部総会を大阪で予定しています。詳細決まり次第別途ご案内いたします。

## JSA 九州

お問合せ／前原 正人 Tel:090-8916-8770



今年も2月3日に宮崎公立大学の学生が、1年生の高妻さんを始め4名スターリング大学に留学するので、現地における生活の事前研修会を宮崎公立大学で中山教授参加のもとに行いました。今年は『Japanese Week』の期間中に林宮崎公立大学学長が、

スターリング大学を訪問されたので、JSAのスコットランドでの活動を見ていただきました。宮崎公立大学もこの活動に何らかの形での参加を要請いたしました。

\*写真は事前研修の様子と、スターリング大学主催の昼食会での林弘子学長です

## 編集後記

2014年2月4日、日本スコットランド交流協会がNPO法人として認可されました。協会が誕生して1年5ヶ月余。とても早いNPO法人化です。関会長と山口副会長に感謝いたします。今後ますます魅力ある協会作りに励まなくてはと身を引き締めています。創刊号は理事のご挨拶に終始していましたが、今回からは色々と盛りだくさんな誌面での展開となります。スコットランドへ想いを馳せつつ、ご一読ください。(の)



☆ 本文編集協力

東京：真々田 紫 / 大工園 佳代 / 荒井 健太郎 / 柴田 文子  
ケイト・トムソン / 片桐 宏典 / 一ノ瀬 浩

山口 謙治 / 閑 妙子 / 野間 忠博

関西：中川 ますみ / 山形 優弘 / 香川 久生 / 鶴野 一成